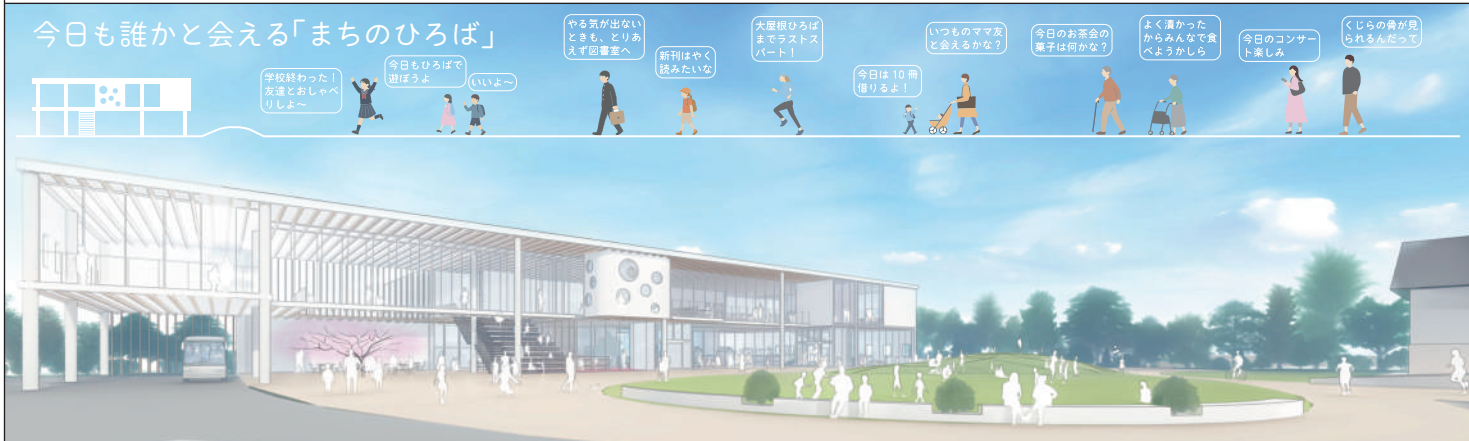


業務の実施方針等

整理番号	※
------	---

※業務の取組体制、設計チームの特長、業務行程、特に重視する設計上の配慮、その他の業務実施上の配慮事項を簡潔に記述する。なお、提出者（協力事務所含む）を特定することができる内容の記述（具体的な社名等）を記載してはならない。



基本方針 まちの - ひろば - をつくる
敷地全体を「まちのひろば」として、「ひと」と「まち」を結ぶ

・活動がさらに人を呼ぶ施設づくり
施設、外構を含めた施設全体を気軽に訪れることのできる「ひろば」として計画します。人を呼び込むだけでなく、人の活動が見えることで、活動が人を呼び集める場所となり、交流人口が増加するよう多様な視点で提案を行います。

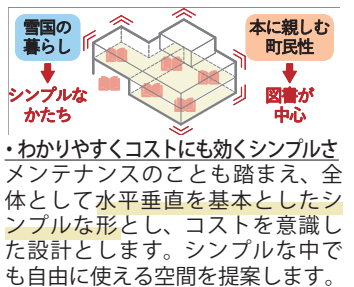
・町の中心部に建つ拠点として
駅、役場、町立病院、真室川公園、温泉など、町の中核となる施設が近接する本敷地において、他の施設と連携しながら町の活性化につながる施設づくりを行います。



配慮事項 真室川「らしさ」が活きる交流センター
本とともにある施設、雪とともに暮らす施設

・図書を中心とした計画
「まちなか図書館構想」に基づく本が身近にある学びのまちとして、町民が訪れたいと、図書が施設の中心に位置づく計画とします。

・気候風土に配慮した雪への対策と共存
無落雪の陸屋根形式とし、雪庇対策のほか雪押場を計画します。また全天候型の大屋根ひろばにより冬も子どもたちの遊び場ともなる、屋外空間をつくります。

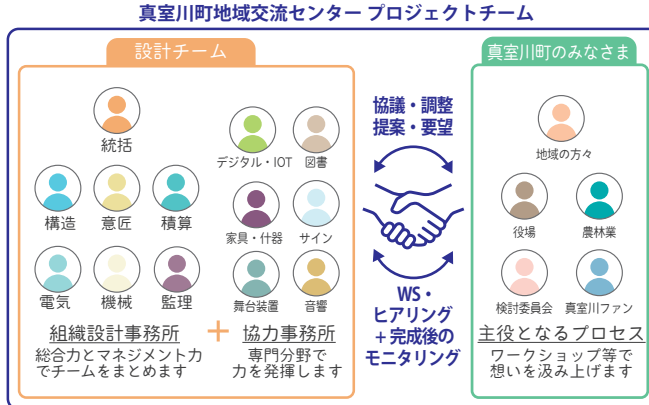


取組体制 地元山形の気候風土への理解を持ち、長年の経験を活かした地域に根差した確かな設計
総合力を発揮するチームで町のみなさんと、「まち」の未来を共に考えます

・対話に重きを置く設計姿勢
使用される方、管理運営される方との対話を重視する姿勢をベースに山形での地域交流施設の設計実績を活かしながら、「まち」の課題に向き合い、未来を共に創造したいと考えています。

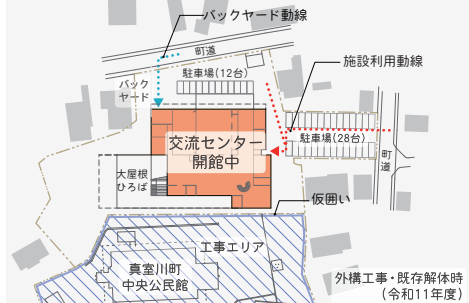
・適材適所の専門チーム
適宜、専門家と協業し、多様な知見を取り入れながら、組織設計の経験と総合力でチームが1つにまとまり、的確な提案を行います。

・想いを具体化できる設計体制
基本構想に至る議論を尊重し設計を行います。また、ワークショップにより町民の想いを汲み上げ、それらを模型や BIM などビジュアル化しながら進めます。視覚的にわかりやすい方法によりスピーディな合意形成をサポートします。



業務工程 確実な業務スケジュール管理
建設コストをグリップしながら後戻りのない設計工程と、安全に配慮した工事計画

・既存建物を使用しながらの安全な工事計画
本施設建設時は、工事エリアを区画し町道からの工事車両の出入りを行うことし、駐車場予定部分などに工事ヤード設けることで、既存中央公民館を安全に使用することのできる計画とします。外構工事・解体工事も利用者の安全な動線と駐車場（約40台）を確保します。



・フロントローディングの設計
設計初期に課題抽出、与条件整理を入念に行い、手戻りのない効率的な業務推進に努め、設計品質を向上させます。同時に積極的な提案型の打合せにより、フロントローディング（前倒し）で設計を進めることにより、プラン、構造形式などコストに大きい影響を与える内容かつ設計初期段階で決めるべき内容に関する議論を深めます。また、基本設計中に概算工事費を3度算出することで、コスト把握を徹底します。

設計期間	令和7年度						
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
全体工程	基本設計 (5.5ヶ月)						
ベンチマーク	契約締結			中間報告	内容承諾	成果提出	
設計	与条件整理 → 検案書作成・一般図作成 → まとめ			ベース案を作成しコストへの影響が大きい事項の比較検討 → コンセンサスの形成し町民の想いを形にする			
コスト管理	配置・ボリュームレアウト調整	コストを踏まえ複数バリエーション作成	進捗 20%	1 m単価超概算	概算結果とアラの調整	WSの意見を取りまとめ具体化	進捗 50%
町民ワークショップ	1	2	3	4	進捗 95%	VE提案	3 概算算出
	・どんな施設にしたい ・どんな施設にいきいたい	・施設に求めるもの ・町の施設への想い	・コンセンサスの形成 ・外観・内観の意識共有	・模型・BIMで感じる ・模型スペースで体験			